

内 容

一般国道 483 号北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路事業に伴って、兵庫県教育委員会は(公財)兵庫県まちづくり技術センターに委託して、耳谷草山古墳群（みみたにくさやまこふんぐん）の発掘調査を進めています。

調査の結果、11 基の古墳が見つかりました。調査成果を公開するため、下記のとおり現地説明会を開催するとともに、兵庫県立考古博物館（播磨町）において現地説明会のライブ中継を実施します。

また、下記のとおり速報展示を行います。

【調査成果】

「耳谷草山古墳群調査の概要」のとおり

【現地説明会】

日時：平成 30 年 12 月 2 日(日) 13:30～15:00

場所：耳谷草山古墳群発掘調査現場（豊岡市日高町山本） 別紙地図参照

ライブ中継公開場所：兵庫県立考古博物館メインホール(加古郡播磨町大中 1-1-1)

【速報展示】

日時：平成 30 年 12 月 4 日(火)～12 月 23 日(日)

場所：兵庫県立考古博物館（加古郡播磨町大中 1-1-1）：メインホールほか

耳谷草山古墳群調査成果の概要

- | | | |
|----|---------|---|
| 1 | 遺 跡 名 | 耳谷草山古墳群（みみたにくさやまこふんぐん） |
| 2 | 遺跡の種別 | 墳墓遺跡 |
| 3 | 遺跡の時代 | 古墳時代 |
| 4 | 所 在 地 | 豊岡市日高町山本 |
| 5 | 調 査 面 積 | 約 4, 4 0 0 m ² |
| 6 | 調 査 期 間 | 8 月 28 日～12 月 27 日（予定） |
| 7 | 調 査 原 因 | 一般国道 4 8 3 号北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路事業 |
| 8 | 調 査 主 体 | 兵庫県教育委員会 |
| 9 | 調 査 機 関 | （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
山田清朝副課長、藤原怜史技術職員、大嶋昭海技術職員 |
| 10 | 調査の概要 | |

（1）遺跡の立地

耳谷草山古墳群は、日高平野に向かって西から東にのびる尾根上に27基が立地する。そのうち、北近畿豊岡自動車道建設工事に係る11基（耳谷草山14号墳～同24号墳）について調査を行っている。古墳の位置する尾根の標高は約80mであり、日高平野が一望できる。

（2）調査の概要（各古墳の規模等は一覧表参照）

- ① 調査した古墳 11 基は古墳時代前期から中期（4～5 世紀）に営まれたことが分かった。
- ② 古墳時代前期の古墳（15・16・19～22 号墳）
 - ・墳丘の平面形は方形が多い。
 - ・1つの墳丘に多数の埋葬施設をもっており、乳幼児の墓である土器棺墓もあることから、各古墳が家族墓的な様相を示している。
 - ・20 号墳の墳丘外で見つかった乳幼児用の土器棺墓に使われた土器は、古墳時代前期に鳥取県地域で主に棺等に利用された壺であることが分かった。

③ 古墳時代中期の古墳（17・18・23・24号墳）

- ・墳丘の平面形は円形が多い。
- ・墳丘に1～2基の埋葬施設をもち、古墳に埋葬される階層が限定されたと考えられる。
- ・本古墳群で最大の墳丘をもつ23号墳から、銅鏡や多数の鉄製品、玉などが出土した。第2主体部から割竹形木棺の跡が確認できた。棺内から、銅鏡1・鉄刀4・鉄鏃約40・鉄斧1・鉄鎌1が出土し、棺の底には塗布された赤色顔料(朱もしくはベンガラ)が残存していた。棺外からは、鏃・鎌・鉋・針等の鉄製品や、種別不明の銅製品が出土した。第1主体部からは舟形木棺の跡が確認できた。棺内からは銅鏡1・鉄製刀子1・勾玉1・管玉8・ガラス小玉17が出土した。2つの主体部から出土した銅鏡2面は、いずれも国内で生産された鏡で、背面の文様から「珠文鏡」に分類される。第2主体部出土鏡は直径9.8cm、第1主体部のそれは5.8cmである。珠文鏡は、但馬では12および13例目の出土である。
- ・24号墳と25号墳（調査対象外）との境の溝から、滑石で作った石釧（腕輪形石製品の一つ）1点が出土した。石釧は、豊岡市域では2点目の出土で、古墳からは初例。但馬では他に4遺跡から7点、兵庫県内では他に10遺跡から27点が出土している。

11 ま と め

- (1) 当古墳群では、古墳時代前期と中期の間で、墳形や埋葬される階層の違いがあることが分かった。
- (2) 本古墳群で最大の墳丘をもつ23号墳は、長大な2基の埋葬施設をもち、珠文鏡2面、多量の鉄製品、玉類などが副葬され、当地域の中心的な人物と考えられる。
- (3) この地域で類例の少ない石釧が出土した。